

学力向上に効果のある取組事例

由布市立石城小学校

①基礎的・基本的な知識及び技能の習得

取組の具体①

〈ていねいな授業づくり〉

- ・「新大分スタンダード」を基本とし、「めあて」と「振り返り」を連動させた授業を全校で実践する。
- ・ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた授業展開および教室環境づくりを推進する。
- ・一人一人の考えを書く時間の確保と考えの交流・教え合いを行う。
- ・学習の流れを明確に表す板書の工夫を行う。
- ・ICTの効果的な活用を行う。

〈国語〉

- ・単元ごとに「書く活動」を必ず位置付け、あらかじめ決めた時間内で仕上げられるよう時間配分を意識させた授業を展開する。
- ・接続語や指示語に着目して文章構成をとらえさせるため、段落カードを用いた並び替えや、問いに対する答えを文末表現から捉えさせる指導を行う。

〈算数〉

- ・問題文にアンダーラインを引かせたり、大切な言葉やキーワードに着目させたりして、児童が自力で見通しや自分の考えを持てる授業づくりを行う。
- ・身近な物や具体例を提示し予想を立てさせ、量感やおよその感覚を捉えさせた授業展開の工夫を行う。
- ・図形の特徴を深く理解させるために、作図の手順を丁寧に再確認させる授業を展開する。

〈理科〉

- ・理科の観察・実験において、自分の体のつくりや自然現象に対する知識と実感を一体化させ、実情に応じた丁寧な概念形成を図る。



取組の具体②

〈基礎基本の定着をめざした反復練習〉

- ・全校で「計算ドリル」の2回反復学習に組織的に取り組み、基礎学力の確実な定着と学習の習慣化を図る。
- ・年間まとめの総復習教材を採用し、2回取り組ませることで既習事項の網羅的な復習を行う。
- ・朝の「学習タイム」や補習時間を活用し、児童の苦手項目や単元テスト等で課題の見られた部分の復習を継続的に行う。
- ・漢字の学習では単体での暗記にとどめず、文脈や熟語の中での練習を行うとともに、短時間で思い出して書く等の習熟を図る。
- ・計算問題や分配法則などの基本法則について、定着を図るための繰り返し練習問題を徹底して行わせる。
- ・理科の基本用語や基本概念を確実に覚えて正しく使えるよう、週末プリント等を活用した復習を計画的に実施する。

